

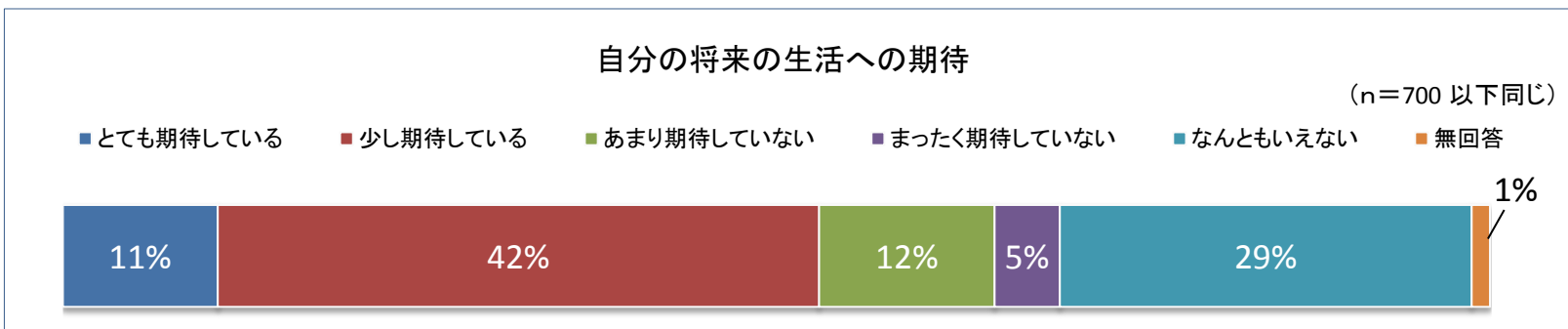
# 若者世代の消費行動に関するアンケート結果

1. この調査は、当研究所が活動の一環として大学・専門学校の在校生に対する奨学金返還啓発セミナーで行ったものです。
2. 時期は、2019年11月5日～12月13日までです。
3. 対象とした大学・専門学校は、延べ8校で、回収できたアンケートは700でした。
4. 年齢は、卒業年次に当たるので20～22、3歳です。

一般社団法人 NTSセーフティ家計総合研究所

# 1. 将来の生活への期待

■ まず、将来の生活にどのくらい期待しているか聞いてみました。対象者は、大学・専門学校の卒業年次生ですから、20～22、3歳です。回答者は卒業した年の10月から奨学金の返還が始まります。



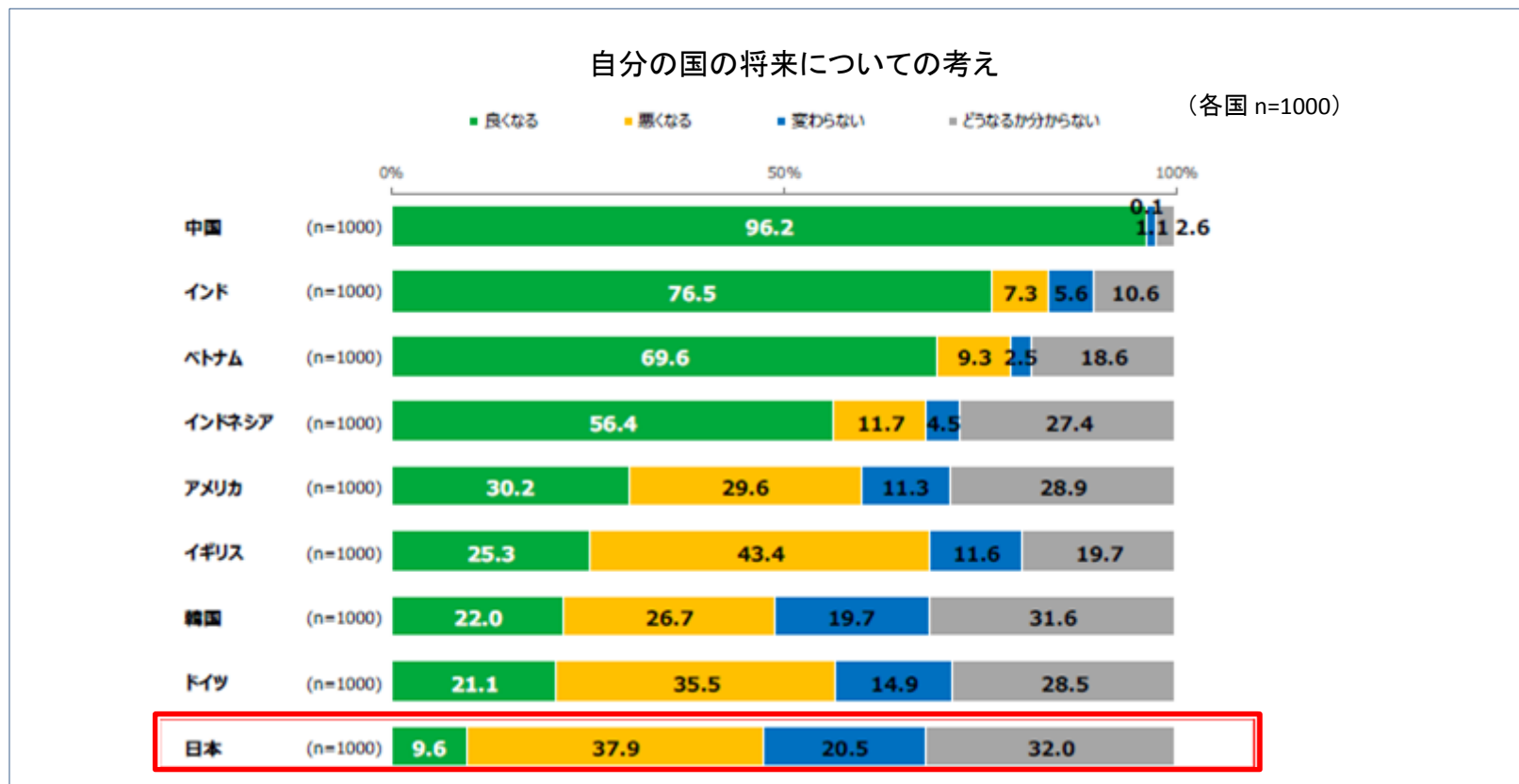
- この結果を見ると、自分の将来については、「とても期待している」(11%)、「少し期待している」(42%)で半数以上を占めポジティブな態度です。
- 「あまり期待していない」(12%)、「まったく期待していない」(5%)は、合計17%でそれほど大きな割合にはなっていません。「なんともいえない」という中立の意見は29%ありました。
- ところが対象を国にしてその将来についての考えを聞くと(日本財団調査)、かなり違った結果となりました。自分の国の将来が「良くなる」という回答は9.6%だったのに対して、「悪くなる」という回答は37.9%と4倍もありました。



\* 「第20回 - 社会や国に対する意識調査 -」(18歳意識調査)日本財団2019年11月30日

## <参考> 自分の国の将来についての考え(外部調査引用)

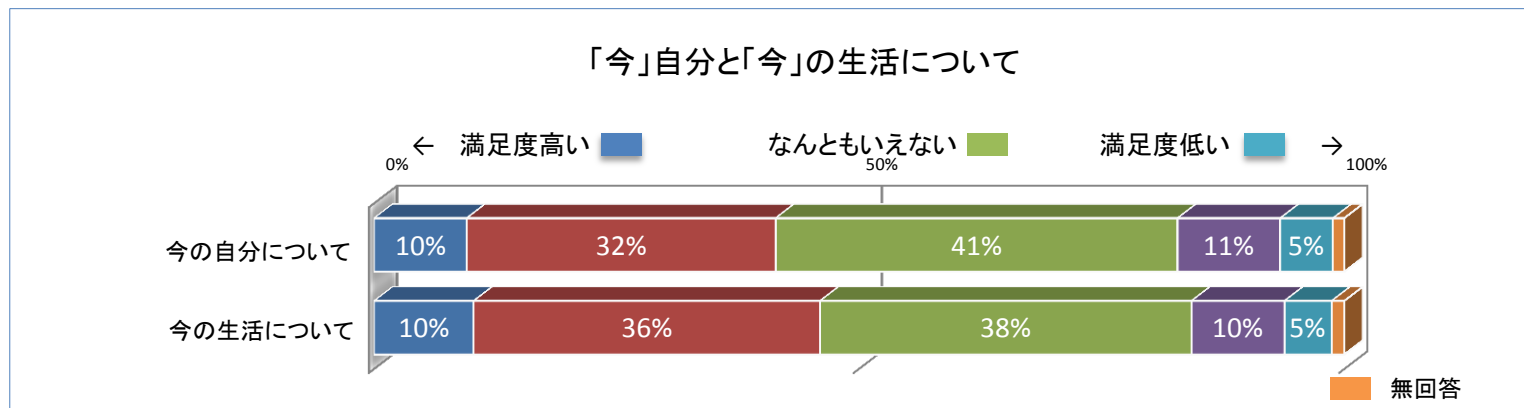
- 前掲の日本財団の調査「第20回 ― 社会や国に対する意識調査 ―」は、下のグラフの9か国の18歳（それぞれ1,000人）を対象にインターネット調査の方法で行われたものです。
- 日本財団の調査結果では、日本は「良くなる」が上のグラフにある9か国中最下位。「悪くなる」はイギリスに次いで2番目に高く、「変わらない」「どうなるか分からない」は日本が最も高い割合となっています。



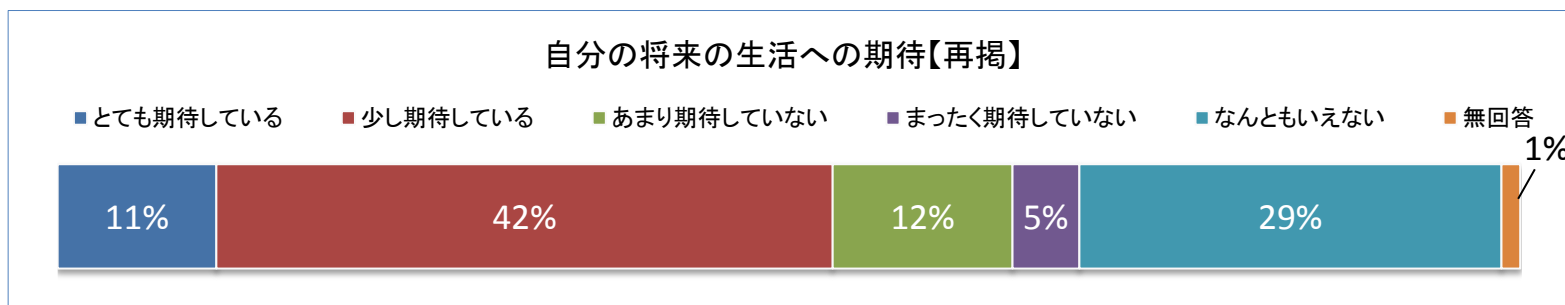
- 「自分の将来」と「国の未来」という異なる設問ですが、二つの調査結果をあえて対比させると、「国の未来」に「良くなる」という期待はあまりありませんが、「自分の将来」については期待があると読み取れそうです。

## 2. 「今」の自分と「今」の生活

- 「今の自分」と「今の生活」について聞いてみました。どちらの設問も 42～46 %と半数近くが「満足度が高い」範囲にあると回答しています。ただし、「なんともいえない」という回答も同程度ありました。
- ちなみに「満足度が低い」という回答は、15～16%でした。

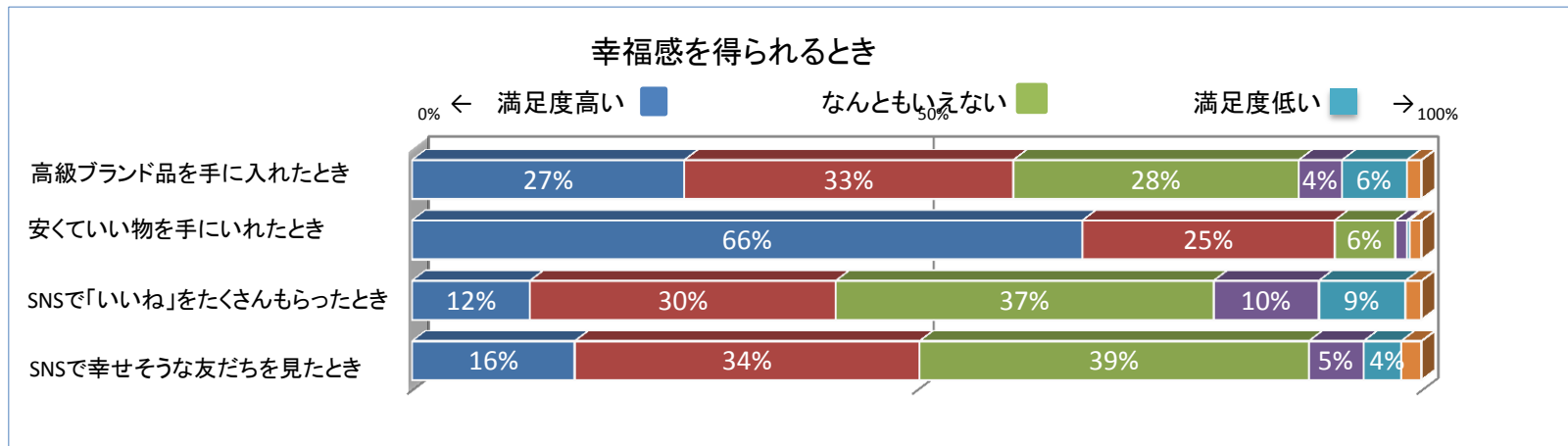


- それでは、先ほどの設問 1（下記【再掲】グラフ）と上記を対比させてみると、「将来の生活への期待度」は「今の自分と生活の満足度」よりも上がり、「なんともいえない」という中間的な回答は約 1 割下がります。「将来への期待度」が低いという回答は、「今の自分と生活への満足度」の低さと変わりはありません。
- 卒業を間近に控えて、将来への期待度が増しているということのように思われます。



### 3. 幸福感

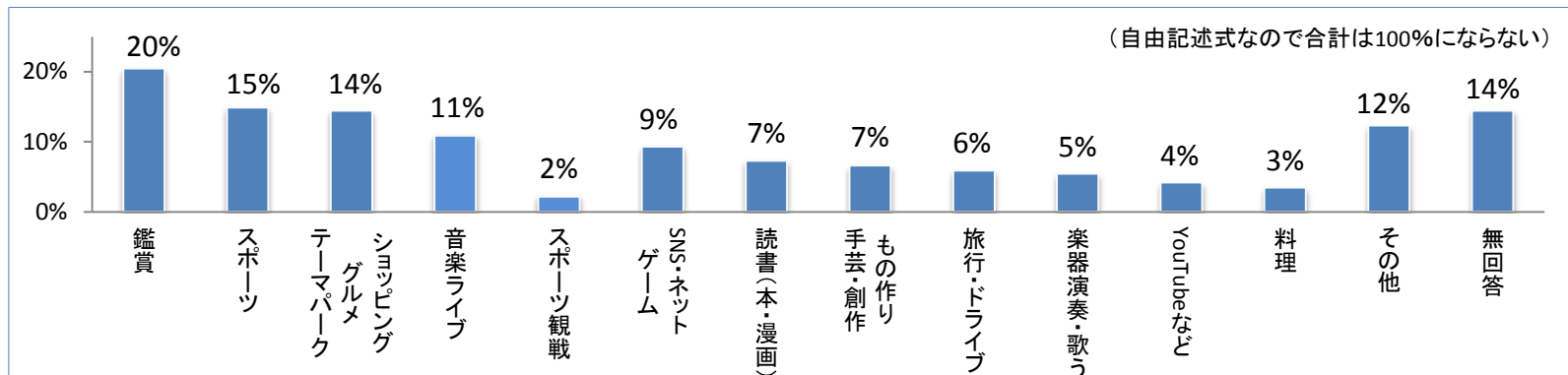
- 「今の自分」「今の生活」の満足度、「将来の生活」への期待のよりどころとなるのは「幸福感」です。そこでどんなときに「幸福感」を感じるか聞いてみました。
- 物については、「高級ブランド品」（高額商品）を手に入れたとき（27%）より、「安くていい物」を手に入れたとき（66%）の方が圧倒的に高い満足感を得られると回答しています。「やや満足」まで含めると「安くていい物」の回答は9割を超えています。
- SNSで「いいね」をたくさんもらったときの満足感が高いかということでもなく（満足・やや満足で42%）、友だちのSNSを見たときの方が満足度が高い結果となりました（満足・やや満足で50%）。
- ちなみにSNSを使っている学生・生徒は98%とほぼ全員でした。



## 4. 趣味と欲しい物

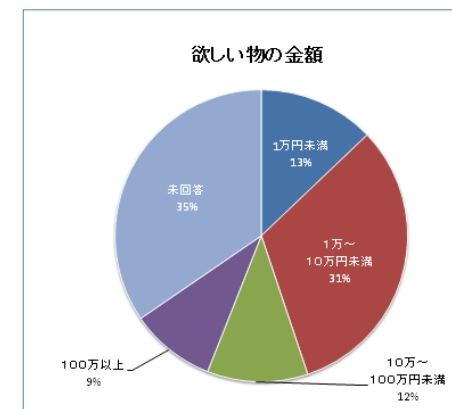
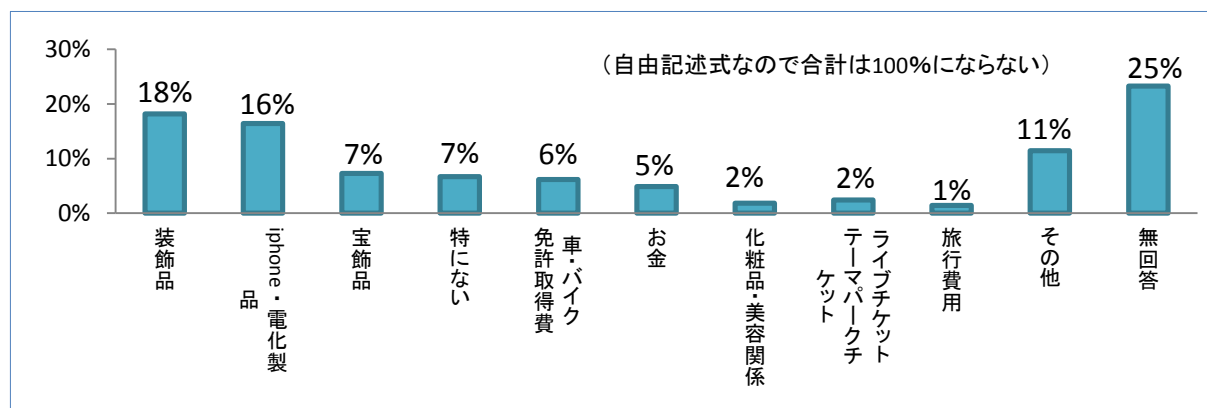
### 【趣味】

■ 趣味は、自由記述式で行ったので、回答は多岐にわたりました。最も回答数の多かった「鑑賞」というのは、「音楽」「映画」と書き込まれたものをまとめたものです。



### 【欲しい物】

■ 欲しい物で個別商品名のiphoneをあげた回答が多数ありました。それを反映してか欲しい物の金額は10万円未満が44%と半数近くを占めました。



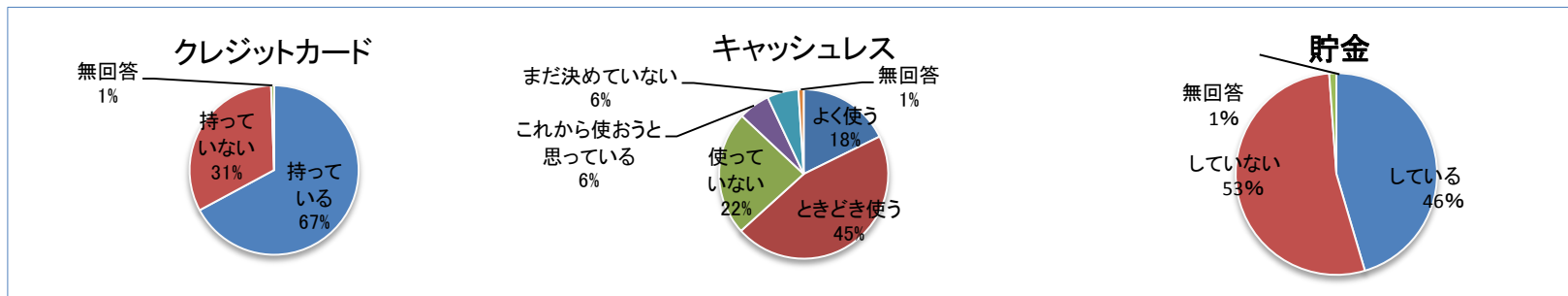
□ 趣味と欲しい物が一致しているものではありませんが、たいていは消費が伴います。

□ 新たな消費カテゴリーとして「コト消費」が注目されています。音楽ライブなどが典型と思われますが、趣味に記述した回答が11%ありました。（「コト消費」は経産省が「魅力的なサービスや空間設計等によりデザインされた『時間』を顧客が消費すること」と定義しています）

## 5. お金について

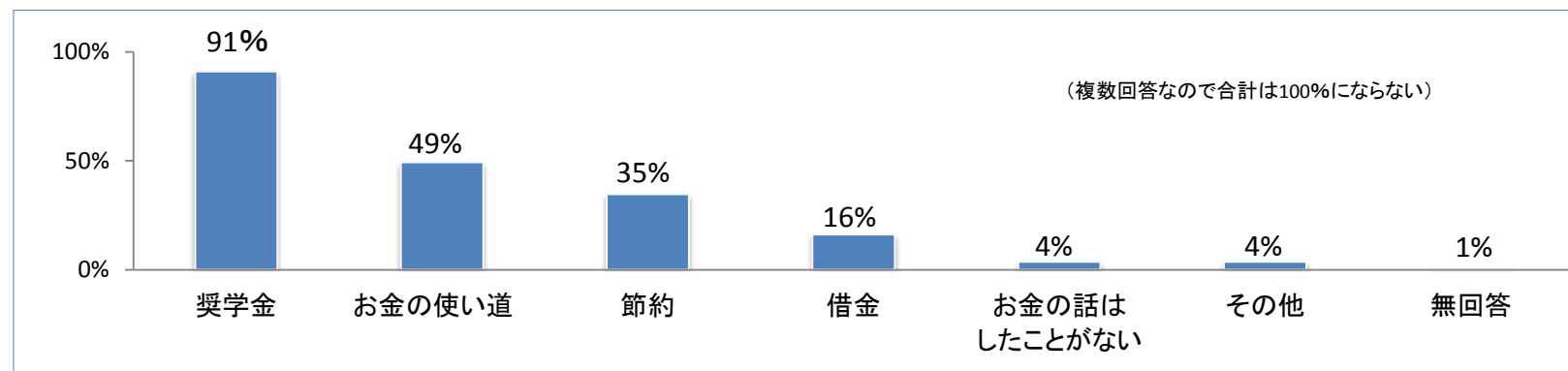
### 【キャッシュレス】

■ クレジットカードについては持っているという回答が7割近くを占めました。キャッシュレスについては「ときどき使う」が45%と最も多く、「よく使う」（18%）と合わせると6割を超えました。一方、「使っていない」という回答は22%でした。貯金を毎月しているという回答は46%と約半数ありました。



### 【家庭内でのお金の話】

■ 家庭でどんなテーマでお金の話をしたことがあるか聞いたところ、「奨学金」が91%を占めました。



□ このアンケートは奨学金の返還をテーマにした講演の際に実施しているので、「奨学金」は当然100%の回答があるものと想定していました。

□ ところが、その回答は91%で残りの約1割は、家庭で奨学金を話題にしたことがないと回答したことになります。そもそも「お金の話はしたことがない」という回答も4%ありました。